

佳作

大張小学校 2年 佐藤 夢々

表題 「「みずをくむプリンセス」を読んで」

書籍名 『みずをくむプリンセス』

わたしがこの本をえらんだわけは、図書しつに本をかりに行った時に、かわつただい名だなぁと思って読むことにしました。

しゅ人ここの女の子のジージーは、アフリカにすんでいます。

プリンセスと言っていますが、ティアラやドレスはきていません。

家には水がないので、ごはんやせんたくにつかう水はおくまで水をくみにいかなければいけません。

朝早く、ねむいの頭につぼをのせて、六・五キロあるいて水をくめても、きれいな水ではなく、どろのまじった水しかくめません。

家にもどっても、すぐにはつかえないので水をわかしのめるようにしたり、せんたくにつかえるようになるまで時間がかかります。やっと、水がのめるようになるのはよるです。これが、まい日つづきます。

「くやくして、わたしは地めんをけつとばす。」という場めんから、ジージーのたいへんさやちかくに水がないとふべんにかんじている思いがつたわってきました。この本を読んで新しく知ったことは、アフリカは水がなくて、まい日の生活がたいへんなことを知りました。

もし、わたしの町に水がなかったら、わたしも同じ思いをして水をくみに行っていたと思います。水があることは、とてもしあわせなことなんだなぁとかんじました。だからジージーには、「水をよびよせるプリンセスになって、えがおでおとうさんとおかあさんとがんばって生きてね。」と言いたいです。